

平成24年11月



平成25年3月期
第2四半期(中間)決算説明資料

ハイライト	2頁	ATM提携先の拡大	8頁
損益状況	3頁	新サービスの状況	9頁
ATM設置台数の推移	4頁	資金調達の状況	10頁
グループ外へのATM設置	5頁	配当政策	11頁
ATM利用件数と受入手数料単価の推移	6頁	海外展開 FCTI（北米）	12頁
取引件数推移	7頁		

※決算発表資料は、当社Webサイトからご覧いただくことができます。
(<http://www.sevenbank.co.jp/ir/library/presentation/>)

本資料には、株式会社セブン銀行の業績に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、具体的な歴史的事実を除き、本資料の作成時点において取得可能な情報に基づく予測等を基礎として記載されています。これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を置いています。これらの記述及び前提（仮定）は主観的なものであり、かつ、様々なリスクや不確実性が内在しています。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想等とは異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、システム障害、災害、犯罪、その他ATM事業及び金融サービス事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。なお、本資料に関する全ての著作権その他の権利は当社に属します。

【 2012年度中間決算 】

- ◆ 経常収益(467億円)、経常利益(165億円)ともにほぼ計画通り
前年同期比、増収増益
 - ～ 設置台数が順調に増加
 - ～ ノンバンクの利用件数も底入れ
 - ～ 預金口座数は100万を超え、ローン残高も順調に伸長
 - ～ 海外送金件数は目標の年間17万件に向け計画通り進捗

【 2012年度通期見通し 】

- ◆ 年初計画を据え置き
- ◆ 米国ATM運営会社(FCTI)の買収、子会社化
(今期決算に与える影響は軽微)

損益状況

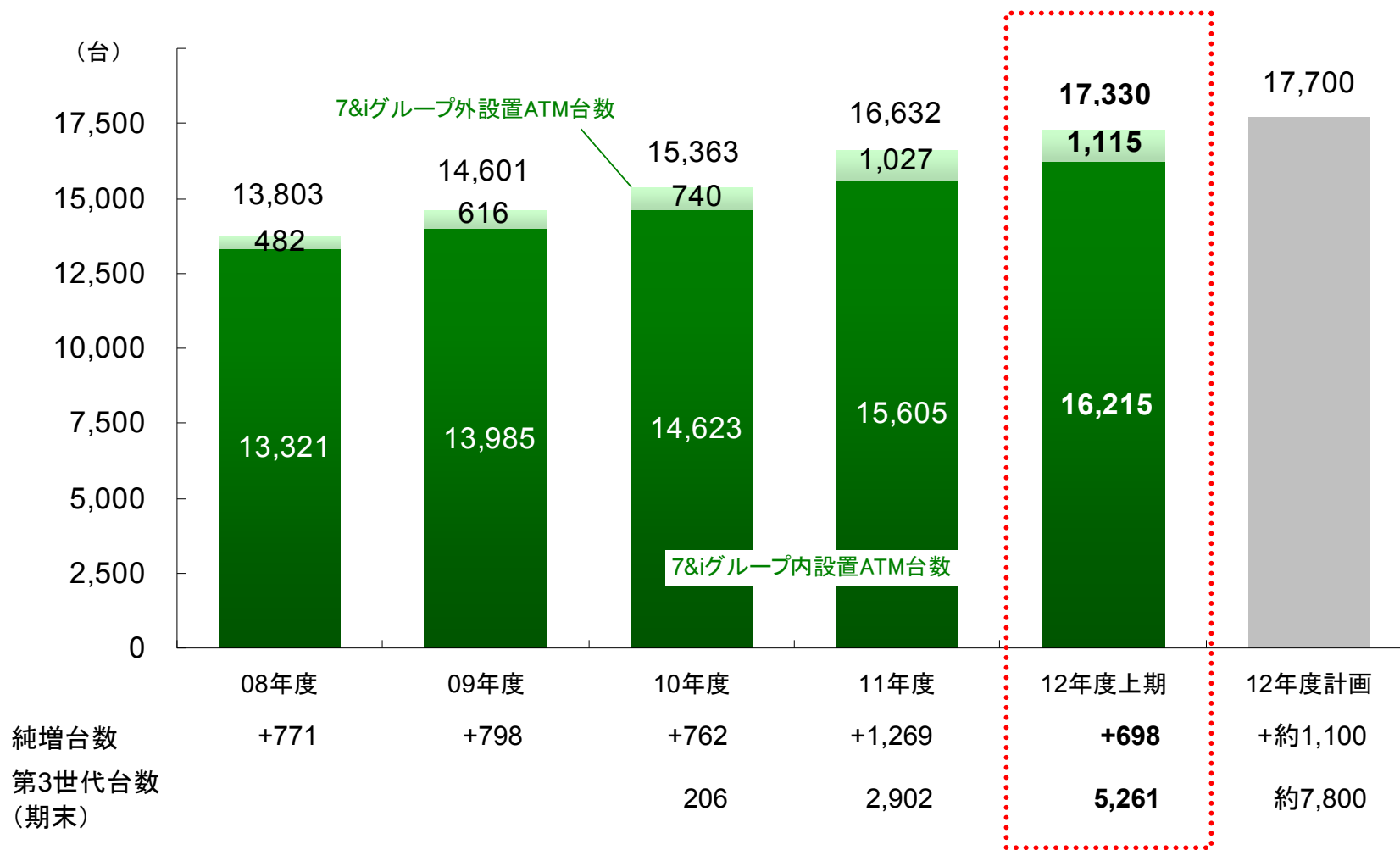
(単位: 億円)

	11年度		12年度		12年度			12年度		
	実績	上期	期初計画	上期	上期実績	前年差異	当初計画差異	計画 (11月9日時点)	前年差異	当初計画差異
経常収益	883	443	938	467	467	24	0	938	55	0
うちATM受入手数料	838	422	891	443	442	20	△1	888	50	△3
経常費用	587	286	633	308	302	16	△6	633	46	0
うち資金調達費用	19	10	18	9	7	△3	△2	15	△4	△3
うちATM設置支払手数料	99	49	107	53	52	3	△1	107	8	0
うち業務委託費	150	74	159	80	77	3	△3	160	10	1
うち保守管理費	42	21	41	21	20	△1	△1	40	△2	△1
うち土地建物機械賃借料	10	5	9	4	4	△1	0	8	△2	△1
うち減価償却費	123	57	143	63	62	5	△1	141	18	△2
経常利益	295	157	305	158	165	8	7	305	10	0
特別損益	△2	△0	△3	△1	△2	△2	△1	△2	0	1
法人税等合計	120	63	114	59	62	△1	3	115	△5	1
当期純利益	172	92	187	97	100	8	3	187	15	0
期末ATM設置台数(台)	16,632	16,005	17,700	17,100	17,330	1,325	230	17,700	1,068	0
ATM受入手数料単価(円)	131.3	131.7	130.9	131.0	130.3	△1.4	△0.7	130	△1.3	△0.9
平均利用件数(件/台/日)	112.6	115.1	111.9	113.0	112.7	△2.4	△0.3	111.5	△1.1	△0.4
総利用件数(百万件)	655	328	698	347	347	19	0	699	44	1

注 計数は全て表示単位未満切捨て

前年差異及び計画差異は億円単位(総利用件数は百万件単位)で比較

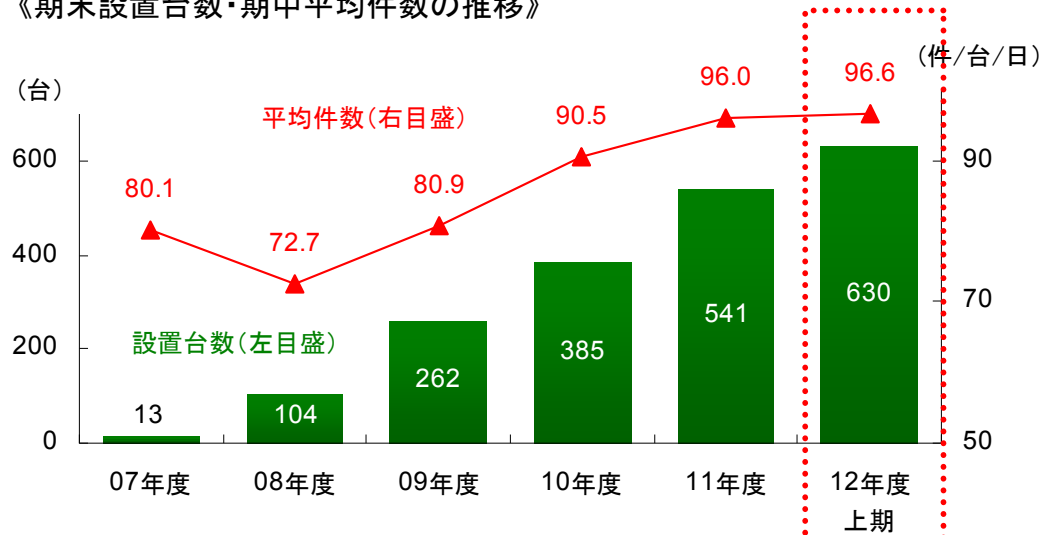
グループ内外とも順調に増加



グループ外へのATM設置

■グループ外設置(除く証券会社)の状況

《期末設置台数・期中平均件数の推移》

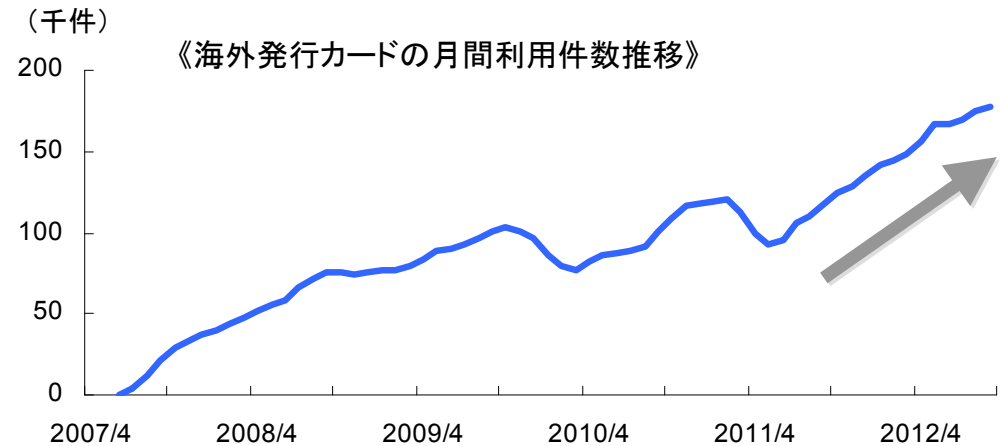


《設置場所の内訳》

	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度 上期
空港	9	22	30	30	33	33
駅・交通系	1	24	61	71	84	92
商業施設	—	32	115	196	298	365
その他	3	26	56	88	126	140
合計	13	104	262	385	541	630

海外で発行されたカードが使えるATMとして、設置ニーズが高まる動き

- ・東京駅のJR EAST Travel Service Centerへ設置
- ・IMF・世界銀行総会の開催期間中、東京国際フォーラムへ設置

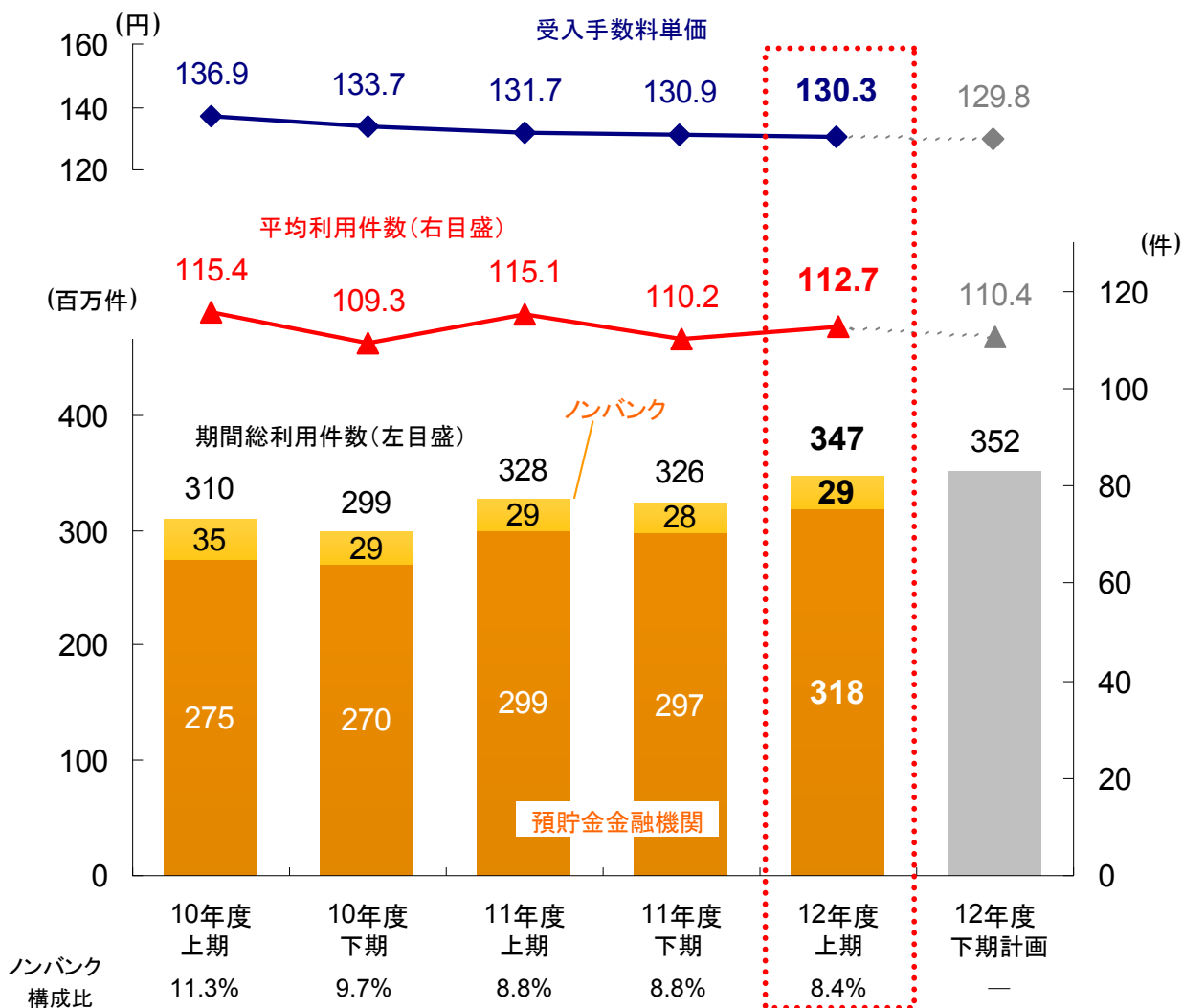


東京駅

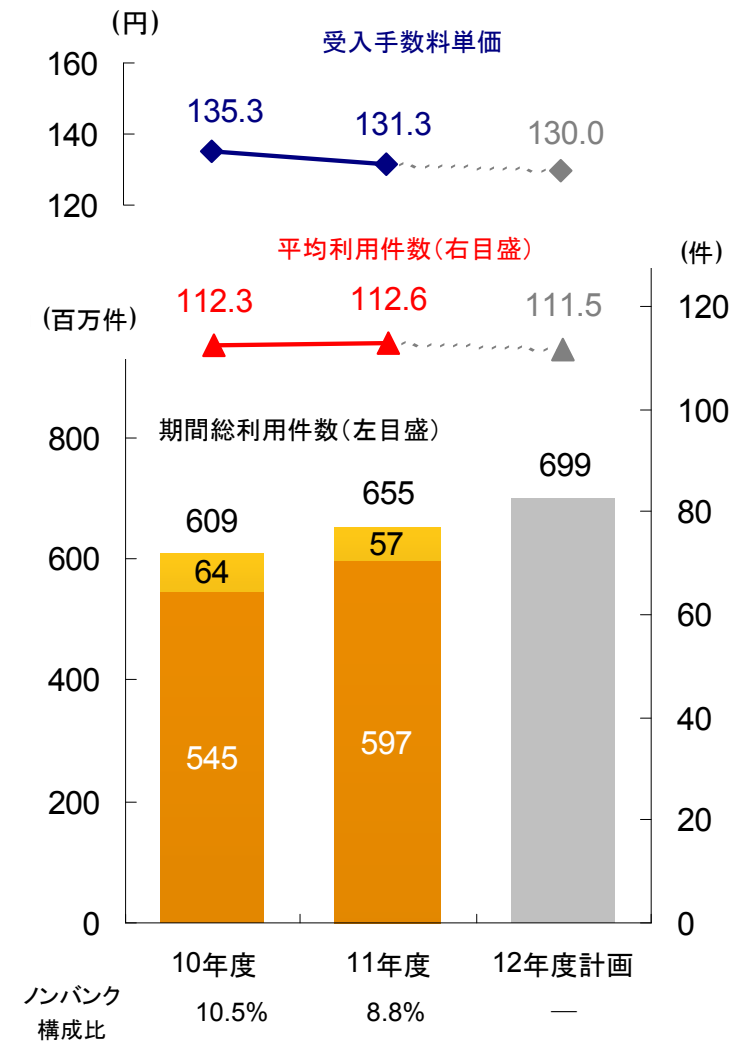


東京国際フォーラム

半期推移

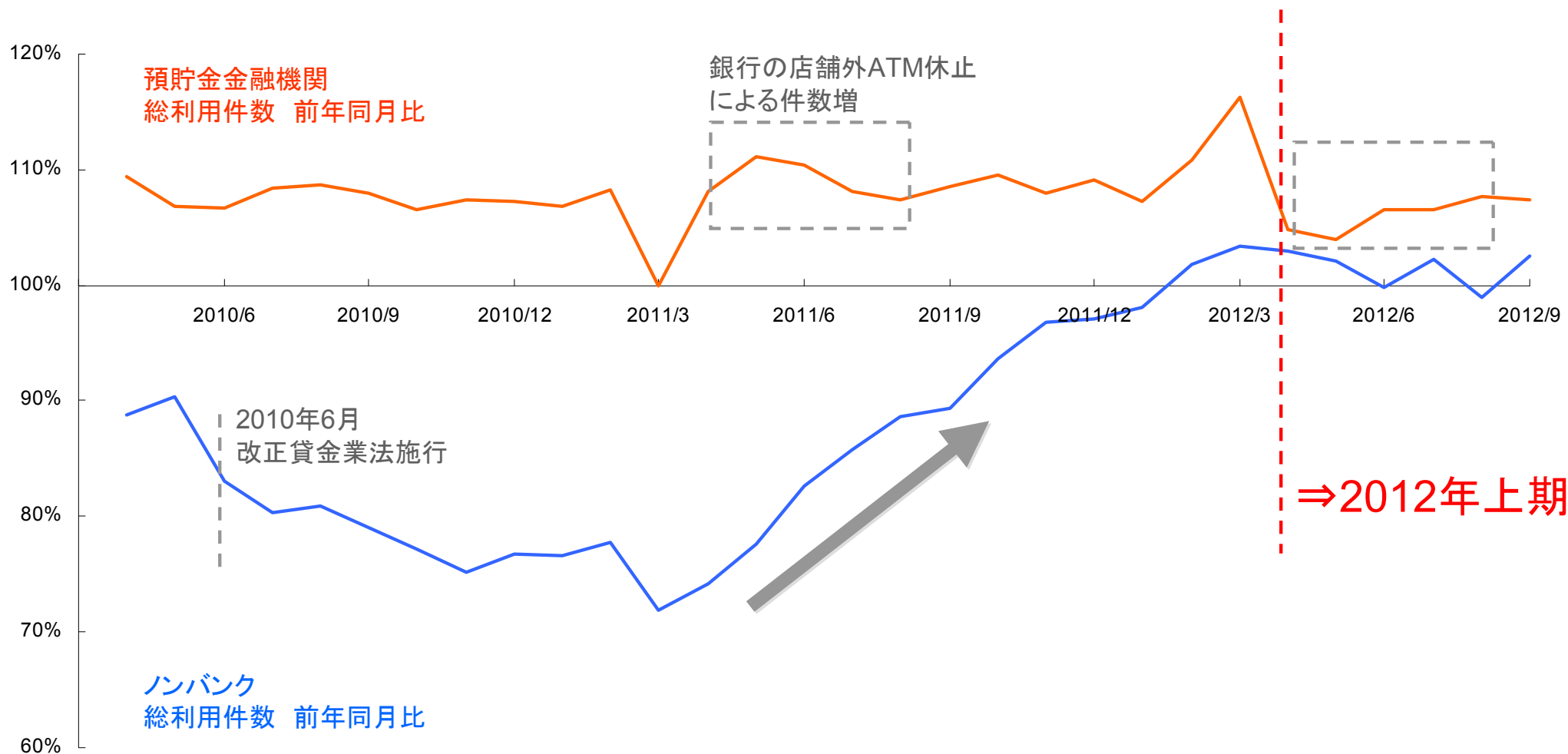


年度推移



注1 平均利用件数、総利用件数には残高照会、電子マネーチャージ、暗証番号変更、利用限度額変更を含まず
 注2 計数は全て表示単位未満切捨て
 注3 ATM受入手数料単価は、ATM受入手数料÷(総利用件数-ATM受入手数料収入を伴わない利用件数<売上金入金等>)で算出
 注4 本資料におけるノンバンクは、証券会社、生命保険会社、クレジット会社、信販会社、消費者金融会社等の合計

- ・ 預貯金金融機関の利用件数は、昨年の各銀行の節電対応による影響を脱し、足元は通常通りの伸び率に戻った
- ・ ノンバンクの総利用件数は前年並に回復

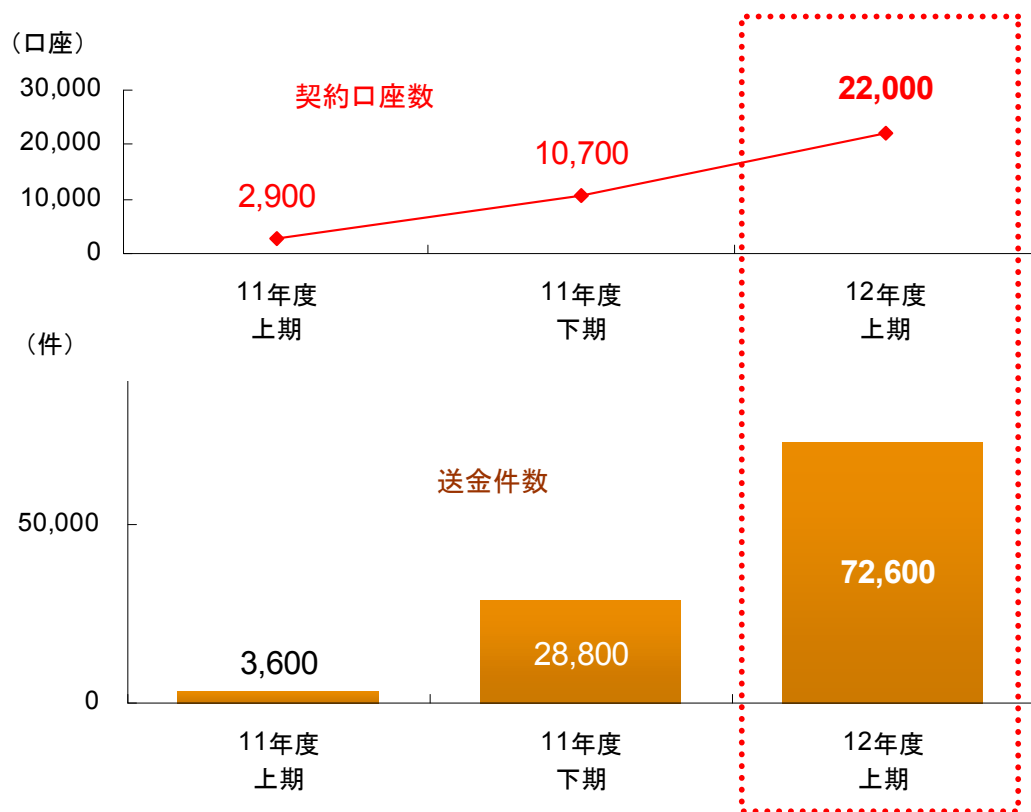


2012年度上期は4行と提携開始

2012年度上期提携開始			2012年度下期以降 提携先			未提携
百十四銀行	(香川)	2012年5月	徳島銀行	(徳島)	2012年10月	13行
西日本シティ銀行	(福岡)	2012年5月	香川銀行	(香川)	2012年10月	
北都銀行	(秋田)	2012年5月	大垣共立銀行	(岐阜)	2012年11月	
池田泉州銀行	(大阪)	2012年8月	富山銀行	(富山)	2013年1月頃	
			阿波銀行	(徳島)	2013年3月頃	
			伊予銀行	(愛媛)	2013年春頃	
			四国銀行	(高知)	2013年春頃	
			愛媛銀行	(愛媛)	2013年春頃	

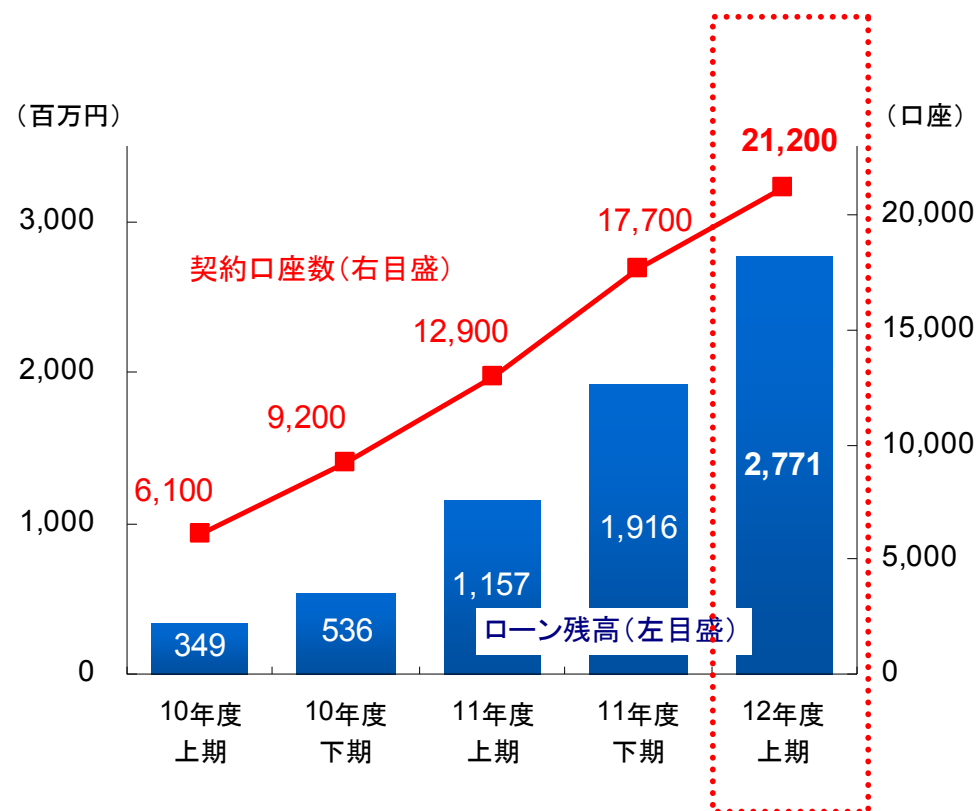
海外送金サービス

- ・職域営業、イベントへの出店を継続し、計画通りに契約口座数は伸長
- ・電話での多言語対応を拡充し、メールオーダーでの口座開設が増加



個人向けローンサービス

- ・口座保有者への案内を中心に、自然体での契約増
- ・契約件数の増加に伴い、残高も着実に伸長



貸借対照表 (2012年9月末)

(単位: 億円)

現金預け金 4,007 ①	預金 3,698 ④
有価証券 989 ②	社債・借入金 1,180
ATM仮払金 1,727 ③	ATM仮受金 567 ⑤
その他 856	その他 819
	純資産 1,315
資産 7,580 (+1,051)	負債+純資産 7,580

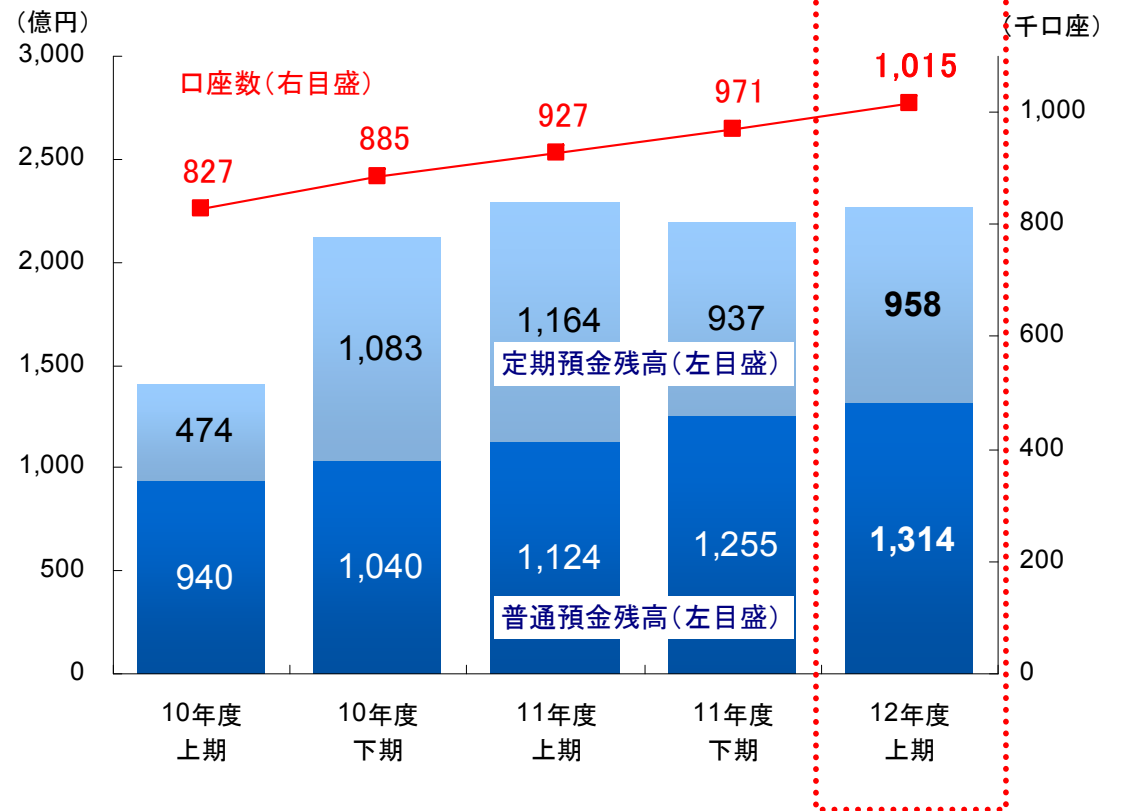
- ①主にATM装填用の現金
- ②主に為替決済、日銀当座貸越取引の担保
- ③ATMの出金に伴い一時的に発生
- ④うち個人預金: 2,273億円、法人預金: 963億円
- ⑤ATMの入金に伴い一時的に発生

注 ()は2012年3月末との比較。百万円単位で比較し、単位未満切捨て

高い財務健全性と信用力

単体自己資本比率(国内基準) 51.60%(速報値)
 格付(2012年9月末現在) S&P AA-(長期発行体)
 R&I AA (発行体)

個人の口座数と預金残高の状況



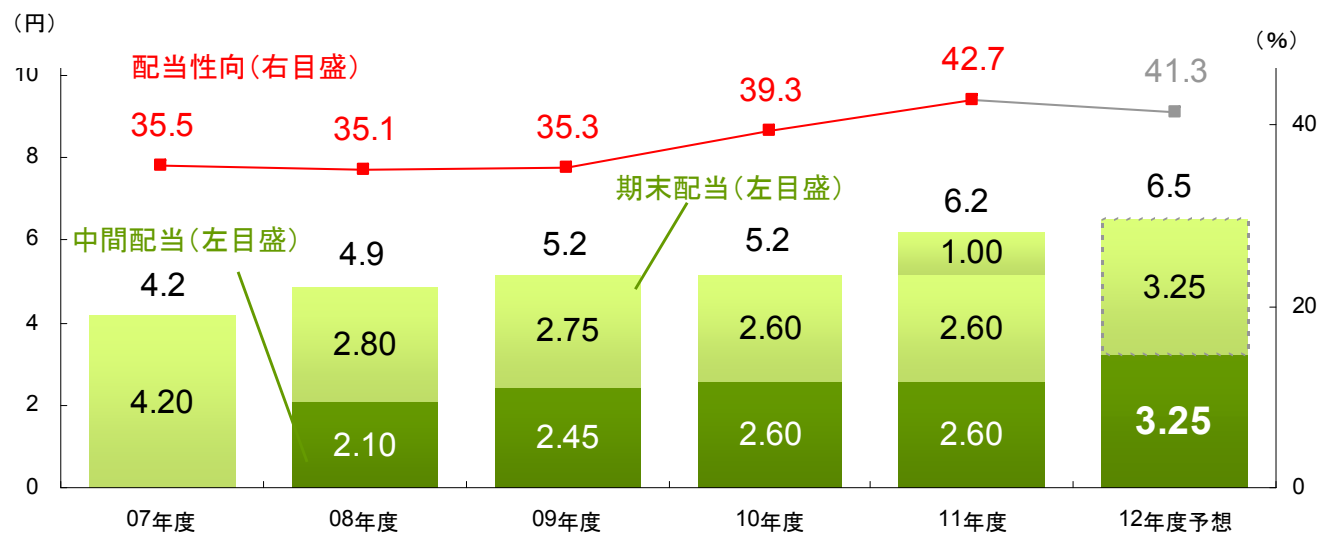
方針

継続的な安定配当の実現を目指し、配当性向は年間35%を最低目標に、年2回配当を実施する

中間配当

配当金額 : 1株当り3.25円(配当総額38億円)～期初予定通り
 支払開始日: 2012年12月3日

配当金、配当性向の推移



注1 2008年度から、中間・期末の年2回配当実施

注2 2011年12月1日付で普通株式1株につき1,000株の株式分割を実施しており、上表は、過去の配当についてもこの分割を反映して計算したもの

注3 2011年度は期末配当に1.00円の東証上場記念配を上乗せ

海外展開 FCTI(北米)



世界最大のATM市場で大手ATM運営会社の一角を占めるFCTI (Financial Consulting & Trading International, Inc.)を買収、100%連結子会社とし、北米でのATM運営事業に進出

基礎データ (2011年12月末)

(1ドル=80円)

従業員数	35人	
ATM台数	2,431台	
1日1台当たり利用件数	18件	
資本金	19百万米ドル	約15億円
総資産	47百万米ドル	約37億円
売上	42百万米ドル	約33億円
EBITDA	8百万米ドル	約6億円
当期純利益	▲2.1百万米ドル	約▲1.6億円
買収額	132百万米ドル	約105億円

ATM台数 日本の約2倍の40万台。近年、銀行がアウトソースを進める中で、非銀行保有ATMの比率上昇、銀行保有と同程度に拡大。

業務範囲 日本に比べ分業化が進んでいる。

ATM保有 顧客手数料の決定権、収受権はATM保有者にある。多くの運営会社はATMを自社保有していないため、保有者である設置先が顧客手数料を得るケースが多い。

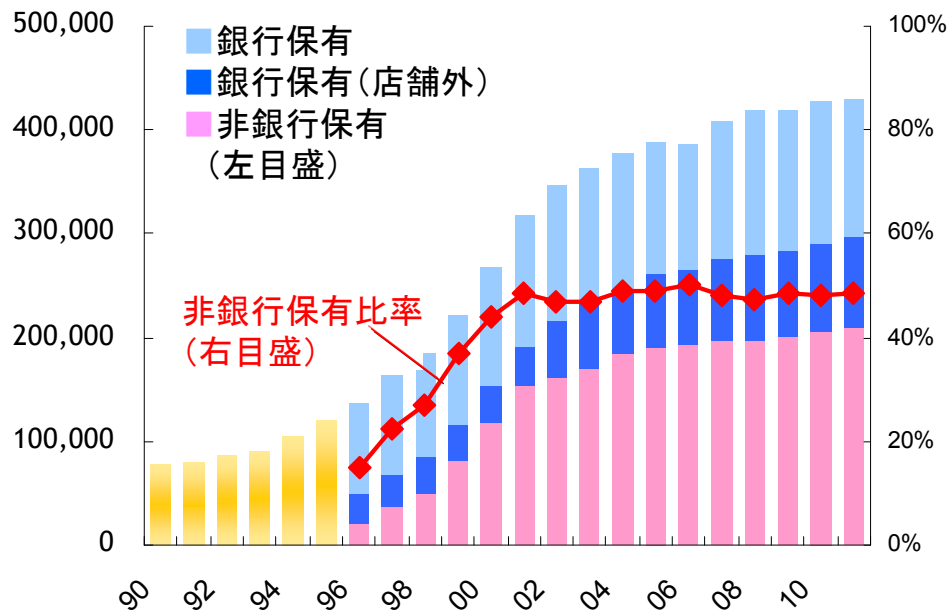
左記の動きは今後も変わらず、運営会社に商機

少人数×効率的に運営により利用件数少でも利益

FCTIはATMを自社保有、他社に比べ収益性高い

米国のATM設置台数

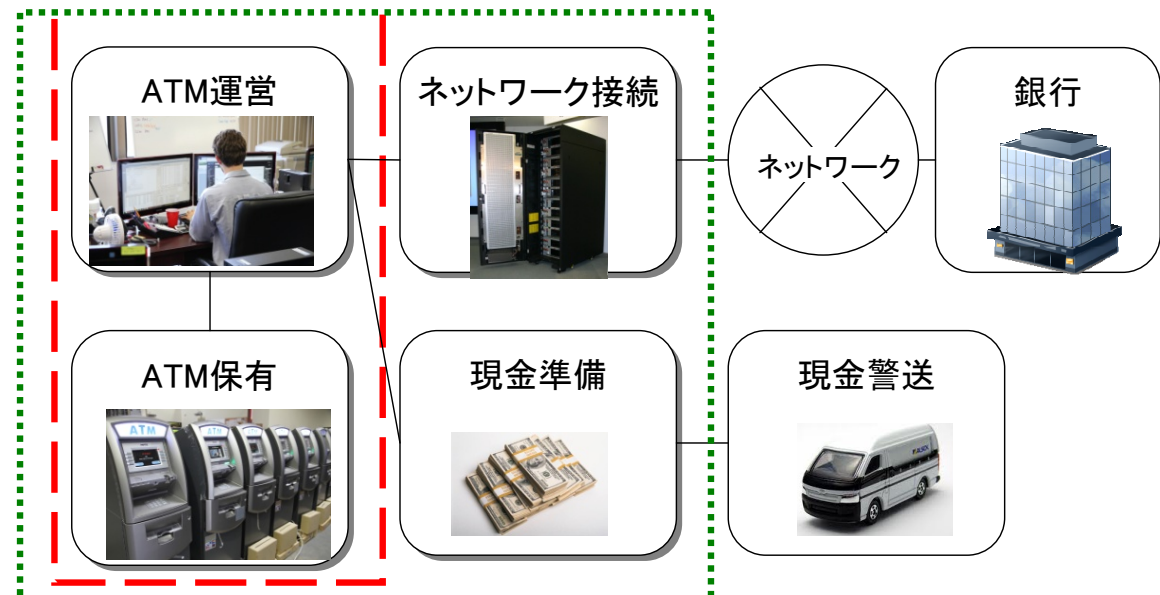
注) 当社調べ



業務範囲の違い

FCTIの業務範囲

セブン銀行の業務範囲



- ・ 利用ニーズの高いトラック・ストップ中心に全米にATM展開
- ・ 銀行間利用料に加え、ATM自社保有により顧客手数料獲得
- ・ シンプルなATMによるローコスト運営

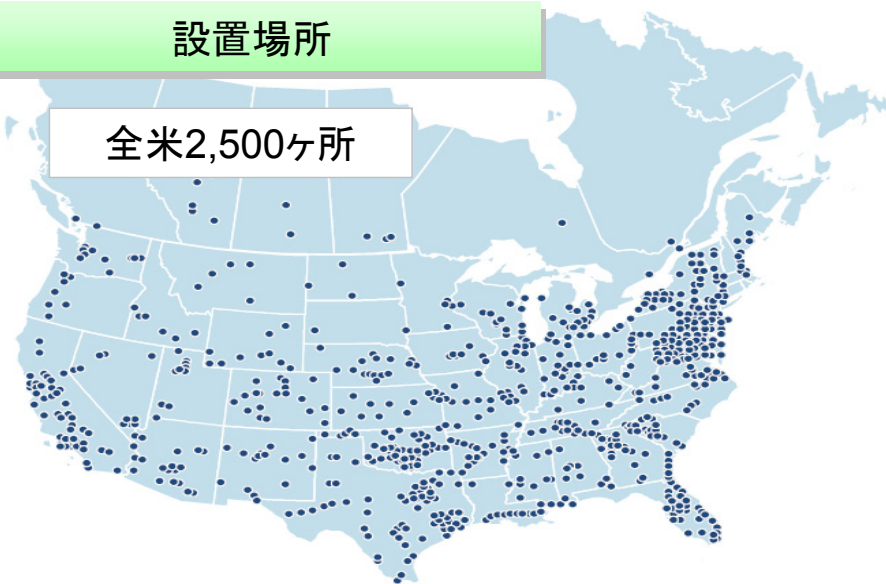
高い利用件数

高い手数料単価

低い費用

設置場所

全米2,500ヶ所



FCTIのATM



- ・ 主に米、韓メーカーから調達（自社保有）
- ・ 出金専用の安価なモデル（取扱いは\$20札のみ）
- ・ 現金準備は業務委託（B/Sの資産としては計上されない）

今後の展開

- ・ 当社3月決算にFCTI12月決算を連結 ⇒ 今期の影響は軽微
- ・ 低コストのATM運営ノウハウ吸収
- ・ 台数増による収益拡大 — 新たな設置先開拓（あらゆる可能性模索）・銀行ATMの受託等を検討